

# 「第三者委員会」をただちに作り、「入居者の実情を踏まえた対応」を



## UR借り上げ市住問題で5回目の申し入れ

日本共産党西宮市会議員団は13日、UR借り上げ復興市営住宅についての5回目の申し入れを行いました。

6月議会においてまつお議員が一般質問で、「神戸市や兵庫県では、移転困難者とされる方々への対応策を第三者も交えた委員会で検討した。西宮でもそうすべき」と求めたことに対し市は、「住民の実態調査の中で、入居者個々の事情により必要となった

場合には、医療、介護など外部の専門家などからなる委員会の設置も検討する」と答弁。今回の申し入れはこの答弁の早期具体化を求めたものです。

### 「市の方針が『絶対』とも言い切れない」と局長

申し入れに対し伊藤都市局長は、

「7月1日、住み替え困難者に対する庁内連携会議を、住宅部と福祉関係部（福祉部長、高齢福祉課長、障害福祉課長など）で立ち上げた。今後福祉ケースワーカーなども同行させ、困難者の実態を個々につかみ、必要があれば外部の助言も得られるようにしていきたい」「神戸市や、兵庫県は方針を決める際に検討委員会を立ち上げた。市ではすでに方針を決めているので、この連携会議は趣旨が違う。しかし、いったん決めた方針が『絶対』とも言い切れない」などと答弁しました。

市の方針とは、重度障害者などには5年間猶予するものの、最終的に全員の住み替えを求めるものですが、高齢化が進んだ入居者の実態をきちんと踏まえれば、何が何でも「住み替え」を強要することは福祉や人権の立場からも無理な話です。

その意味でも、「いったん決めた方針が『絶対』とも言い切れない」という伊藤局長の発言は大変重要です。

議員団は引き続き、希望者が住み続けられるよう求めています。

## 新年度予算要望書作成に汗をかいています...

8月29日から始まる9月議会では、前年(2012年)度の決算も審査します。決算審査は新年(2014年)度予算編成にも活かすべき大切なものです。

党議員団では、この決算審査に先立って新年度予算要望書をまとめる作業に、今奮闘中です。お盆休み返上で、それぞれの所属常任委員会ごとに案を提出し、議論。また、17日には、団体、個人の皆さんに呼びかけて、懇談会も行いました。

懇談会では、「小・中学生の居場所、遊び場が

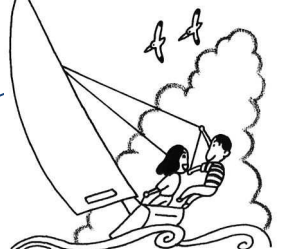
少ない」「高校学区拡大はやめてほしい」「公契約条例をぜひ」

「現在モデル事業2年目の住宅リフォーム助成制度の本格実施を」「老人会への補助金削減をさせないで」「自宅前の小河川にガードレールがなくて危険」などの切実な声が多数、寄せられました。

これらも取り入れて、8月30日、市長に提出の予定です。

猛暑!

まだまだ暑い日が続きます。熱中症にご注意を!



要望を聞く懇談会も開催